



日本プロ野球名球会メンバーによる交流会（1）

北別府 学さん 4月19日（開催地：岩手県陸前高田市）

今回で2度目の参加となる北別府さん（今年1月に大船渡市の仮設住宅を訪問）は陸前高田市内の追悼施設にある「献花台」にて献花を行い、震災当日の状況や現在の復旧状態を確認しました。

次に陸前高田市役所を訪れ、国連の友から現在迄の支援活動の報告後、陸前高田市 戸羽市長からは現在の復興状況と今後の課題の説明を受けました。



陸前高田仮庁舎



戸羽 太 市長



報告会の様子



日本プロ野球名球会メンバーによる交流会（2）

陸前高田市仮市庁舎を出発し、交流プログラムの場所となる滝の里工業団地仮設住宅集会場（岩手県陸前高田市竹駒町）を訪問しました。

交流会には北別府さんの話しを聞こうと多くの仮設入居者の方々が集まり、交流会の中で北別府さんより以下のコメントを頂きました。



『前回、1月18日に参加させてもらい、少しずつではありますが工事が進んでいる等、復興に向かっていると感じました。一日も早い町の復活を望むことくらいしか僕達には出来ませんが、今後も引き続き協力させて頂ければと思います。

1月の訪問では大船渡市の上平仮設住宅にお邪魔させて頂きました。

皆さんにお会いする前は「自分がもしもこんな状況に置かれたらどうなるのだろう…！？

皆さんにどんな言葉をかけたら良いんだろう…！？」と随分悩みました。

しかしながら、今回も被災地の皆さんに逆に励まされるばかりです。

自分事ですが、今年3月に娘が嫁ぎ、4月には息子が大学入学の為に広島を離れ東京に旅立ちました。現役時代から遠征続きで家族と過ごす時間は限られていましたが、ここ数年は広島での仕事を中心にようやく家族とゆっくり過ごせると思っていたら、子供達は巣立ちの時を迎えていました。息子を見送った日、妻と二人だけになった家を見渡しながら初めて寂しさと家族の大切さをしみじみ感じました。





日本プロ野球名球会メンバーによる交流会（3）

皆さんの多くはご家族、ご親戚、ご友人を亡くされ、その寂しさは私のものとは比較にならないと思います。でもその辛さや痛みを経験したことで広い視野で物事を捉えられ、人生の深さも身を持って感じたことと思います。「人の立場に立って相手を思いやる」とは言葉では簡単ですが、心を持って接することは難しいことです。

皆さんが日々その心を持って暮らされていることを日本中の方々が知っています。私達は日々皆さんからそれを学んでいます…。皆さんを忘れることは決してありません。

また来ますから、待っていて下さい。今日も皆さんから学んだこと、励まされたことを、息子にも伝えたいと思います』

北別府さんは、ゆっくりとした口調で優しい眼差しを向けながら話されました。



国連の友医療団による
ストレスチェック実施の様子



仮設住宅を訪問



交流会に集まって頂いた皆さん



日本プロ野球名球会メンバーによる交流会（1）

鈴木 啓示さん 5月17日（開催地：岩手県大船渡市）

陸前高田市内の追悼施設にある「献花台」にて献花を行い、震災当日の状況や現在の復旧状況を説明された後、大船渡市役所を訪れ大船渡市 金野副市長とお会いしました。

金野副市長からは、大船渡市では現在も2,500名が仮設住宅で暮らされており、不自由な生活は日々の生活を圧迫し、また大人だけではなく子供達も学校のグラウンドが使えない等、子供達の心の問題にも気を配っていかねばならない状況が続いていることから、長期化する避難生活に伴うストレス等に対応する“心のケアの重要性”を再度訴えられ、名球会会員が仮設住民と直接触れ合い、言葉を交わし、時間を共有する事の大切さと住民の感謝を伝えて頂きました。



献花台にて現状説明の様子



報告会の様子



日本プロ野球名球会メンバーによる交流会（2）

大船渡市役所を出発し、交流プログラムの場所となる鳥沢仮設住宅集会所（岩手県陸前高田市竹駒町）を訪問しました。

集会場には住民の方々や、鈴木さんの来訪を聞きつけた他の仮設の方々もお集まりになり、鈴木さんの印象に残る試合や、今年のプロ野球注目選手の動向など様々な質問が寄せられました。

鈴木さんはプロ入り後のエピソード等を交え、困難な生活を送り続けている被災者に以下の話をされました。



『人生は思いもよらない奇跡や困難に満ちています。また逆境が幸運な結果に繋がる事もあると、自分の野球人生を振り返って感じる事が多々あります。
近鉄バファローズ（現：オリックスバファローズ）でなければもっと勝ち星がついたのでは…といわれることもあります。近鉄だからこそ僕は活躍できたのだと思います。正直言って近鉄は好きな球団ではありませんでした。3～4年過ぎると段々好きになってきたのです。

10年も過ぎるとその感情は愛情になり、20年経つと感謝に変わりました。
僕は560被本塁打という世界記録を持っています。「悔しい記録」ではありますが、決して逃げた投球をしなかったという「誇りの記録」でもあります。常勝球団であれば、チームの勝ちを優先し、自分の勝負に撤する事は許されなかったと思いますが、万年最下位だった近鉄だったからこそ、僕は自分の哲学を貫き、勝負の時間を貰えたのだと思います。
日生球場という狭い球場でノーヒット・ノーランを2回達成できたのも、狭い球場という短所を活かし、コントロールを磨く事が出来たのだと感謝しています。





日本プロ野球名球会メンバーによる交流会（3）

自分の人生を振り返ると時にマイナスと思われる事がプラスに作用する事もあるのだと…
良い事も悪い事も奇跡のような時間になることを知りました。

現役を引退し、年も取ってきましたが、僕は年という数字に捉われることなく、今が旬という気持ちを大切にしています。

皆さんも大変ご苦勞な毎日を送られていらっしゃると思いますが、お互いに今が「旬」と考え、この困難を乗り越えて行きましょう』と被災者の皆さんを励して頂きました。



国連の友医療団による
ストレスチェック実施の様子



仮設住宅を訪問し、不便な
現状について説明を受けました。



交流会に集まって頂いた皆さん



国連の友が被災地支援活動の一環として実施して
いる『FOUN Wood Deck Programme
Report (WDP)』の視察を行いました。

